

## もくじ

■ 図書館のサービスが4月より大幅に拡大 □ 日曜開館時 貸出・予約サービス開始など	▶ 7
■ データベースがさらに使いやすく！ □ HPデータベース利用画面一新/データベース講習会も開催	▶ 3
■ 今年度もDOORS講習会・(今出川図書館閉架書庫) □ 入庫説明会を開催	▶ 4
■ 新入学生対象・総合情報センター(図書館)利用説明会に □ 1390名が参加	▶ 4
■ 所蔵資料紹介～ケンペルの見た日本	▶ 5
■ 日・EUフレンドシップウィーク at 同志社大学	▶ 7
■ 情報システム室からのお知らせ	▶ 8

## 図書館のサービスが4月より大幅に拡大

## 日曜開館時 貸出・予約サービス開始など

本学図書館は大学における学術研究・教育を支える重要な基盤として、学術情報の迅速・的確な収集と利用提供等のサービスを行う役割を果たしてきました。同時に、変化のめまぐるしい現代社会において多様化する利用者のニーズに対応するために、施設設備の改善やサービスの充実などのさまざまな取り組みを行ってきました。

今年度は、利用者みなさんがこれまで以上に有効かつ快適に各種の資料情報を利用できるように、新たに両校地図書館日曜開館時の提供サービスの大幅な充実と、今出川図書館の休講・休暇期間の開館時間延長に取り組むことになりました。

## 日曜開館のサービスが変わります

今出川図書館では1998年10月に、京田辺校地ラーネッド記念図書館は1999年7月に、相次いで日曜開館をスタートさせ、開講・試験期間中の日曜日に勉学・研究に参考となる資料と静かな環境を提供してきました。サービス内容に制限があるものの、現在

では一日平均600人余りの人が日曜日の両校地図書館を利用しています。

その一方で日曜日のサービス内容が平日と異なる点について、利用者みなさんから様々な要望が寄せられていました。

今年度は、開館時間・開館日数は昨年度と同様としながら、従来のサービスに加えて日曜日の提供サービスを大幅に拡大します。

次ページに具体的なサービス内容をお知らせします。サービス内容によって、提供時間が異なります。図書館掲示板や「利用案内」、配布中の開館日程表で確認してください。Web上でも見ることができます。

(<http://www.doshisha.ac.jp/gakujo/library/>のt\_kaikanおよびi\_kaikan)

日曜日の図書館を大いに活用してください。

### a. 貸出・返却・予約の手続と、他校地図書館資料の取寄せ申込

貸出・返却や資料の予約は月曜日から土曜日の間のみ取り扱ってきましたが、日曜日も手続ができるようになりました。

他校地図書館の取寄せ資料は、日曜日に申し込むと翌月曜日中に利用できるようになります。

\* 手続には学生証・利用カードが必要です。

### b. 図書館内のパソコンコーナー・DOORS検索コーナーの利用

ラーネッド記念図書館2階(12台)、今出川図書館1階(30台)の各パソコンコーナーが利用できます。各種の搭載ソフト・ネットワークの利用ができ、共有プリンタでプリントアウトもできます。また、Webで提供している各種のデータベースも利用できます。

DOORS検索コーナーでは、Web版・オンライン版両方のDOORSで本学所蔵資料の検索ができます。

\* パソコンの利用は本学学生・教職員に限り、かつ利用者ID・パスワードが必要です。

### c. 今出川図書館閉架資料の利用

閉架資料の出納と入庫利用ができるようになりました。マイクロ資料、マルチメディア資料の出納請求や利用もできます。禁帯出資料を除き、館外貸出手続もできます。

\* 貴重資料の利用はできません。

\* 出納業務は12:00~13:00の間休止します。

### d. その他

- ・日曜日の開館時間は従来通り午前10時から午後5時までとします。
- ・レファレンスカウンターは利用できません。
- ・今出川図書館のマルチメディアライブラリーは開室します。(10:00~16:30)

### 今出川図書館の休講・休暇中の開館時間を延長します

今出川図書館は、現在の啓明館にあった1960年頃には、すでに午前9時から午後9時まで開館していました(開講期)。その後、昼夜開講制の導入によ

り、開講期間中は午後10時まで開館時間を延長しましたが、夏期休暇・休講期の開館時間は短縮時間のままでした。

しかし、休講期間中においても1日平均1000人以上の利用者が図書館を訪れている状況から、今年度より大学が休業日以外の月曜日から土曜日の午前9時から午後10時まで開館することにします。これにともない、閉架書庫の入庫や資料の出納請求は午後9時まで、貸出・返却・予約の各手続とマルチメディアライブラリー・パソコンコーナーの利用は午後9時30分までできるようになりました。

夏休みや春休み等の休暇中も、静かな環境のなかで、ゆっくりと図書館を利用することができます。

\*レファレンスカウンターは休講・休暇期間中、サービス提供時間を短縮いたします。利用案内等で取扱い時間を確認してください。

2002年度両校地図書館の日曜開館日

'02年 4月	14	21	28		
5月	12	19	26		
6月	2	9	16	23	30
7月	7	14	21	28	
10月	6	13	20	27	
11月	3	10	17	24	
12月	1	8	15	22	
'03年 1月	12	19	26		
2月	2	9	16		

### ラーネッド記念図書館からのお知らせ

5月から京田辺校地のラーネッド記念図書館の2階出入口に入退館システムを設置します。

入館に際しては、学生証、社員証、利用カードが必要となります。図書館を利用するときはこれらを忘れないように注意してください。

なお、利用カード等をもっていない場合は、係員まで申し出てください。

## データベースがさらに使いやすく！

HPデータベース利用画面一新  
／ データベース講習会も開催

### ■ 検索が瞬時かつ確実！

すこし前まで新聞記事を検索するのに、図書館カウンターで過去の新聞数ヶ月分をドサッと借りたり、書架から分厚い縮刷版を取り出して、掲載された日のおおよその見当をつけ、時間と労力をかけて探し当てるといった地道な作業をしていました。はたして、かけた時間と労力にみあったおめあての記事を見つけることができたでしょうか？

それが、パソコンの画面上で瞬時に、しかも漏れなく欲しい記事をリストアップできるようになりました。

このように、データベースを使えば国内外新聞記事だけでなく学術記事や文献、学術雑誌、一般誌、判例、法令等あらゆる分野の情報を手軽にすばやく検索できます。情報収集のおおきな味方になることまちがいありません。図書館では効果的な学術情報検索のために各種のデータベースを提供しています。大いに活用してください。

### ■ 新しい3つのデータベース

この4月から次に紹介するデータベースが利用できるようになりました。

#### ・Enjoy-Jojs!

科学技術振興事業団（JST）が提供する科学技術関連の文献・新聞記事・化合物等のデータベース。JICST・JMEDICINEなど。

従来提供しているJOIS（有料・代行検索）と同じ内容が、複雑なコマンドを覚える必要なく検索できます。Webブラウザの画面を通じて手順を案内しますので、初めての方でも簡単にデータベースの検索ができます。

#### ・NACSIS-IR

国立情報学研究所が提供する総合データベース。代行検索で提供している有料のNACSIS-IRから海外のデータベース等を除いたものを検索できます。

#### ・NACSIS-ELS

国立情報学研究所が提供する電子図書館サービス。

学協会発行の学術雑誌について、ページの画像データを書誌情報とともに検索できます。

### ■ HPのデータベース利用画面を一新

このように、データベースの数が増えるなかで目的にあったデータベースを効率よく選択できるように、4月から総合情報センターホームページのデータベース利用画面を一新しました。探している情報の分野別にどのようなデータベースがあるか、一目でわかります。また、Webで提供している契約データベースだけでなく、学内LANで提供しているCD-ROMなども同時に一覧することができるようになりました。説明ボタンをクリックすれば、それぞれのデータベースの説明もあります。いろいろなデータベースにトライしてください。



### ■ データベース講習会も開催

昨年度好評だったオンラインデータベースの講習会が、今年度も両校地で開催されます。パソコンを使って実際に検索をしながら利用方法を学ぶことができます。日程が決まり次第、ホームページや掲示でお知らせします。興味ある分野の講習会にぜひ参加してみてください。

\*各講習会は、それぞれ受講定員が設けられています。

\*両校地図書館カウンターで申し込みを受け付けます。

実施時期(予定)：5月下旬～7月上旬(詳細は後日掲示)

実施校地：京田辺校地・今出川校地

## 今年度もDOORS講習会・（今出川図書館 閉架書庫）入庫説明会を開催

データベース講習会だけではなく、両校地図書館では、図書館をより便利に利用してもらうための情報がいっぱいあった各種の講習会を行います。各講習会の日程は、両校地図書館の掲示板やホームページ上でお知らせしています。授業の合間など、都合のよい日時を選んで図書館カウンターで申し込んでください。

### DOORS講習会

同志社大学蔵書検索システム『DOORS』を使うと、本学および同志社女子大学の所蔵資料を簡単に検索することができます。本のタイトルや著者名・分類から検索ができ、探している資料が学内のどこにあるかが一目でわかります。また、オンライン版のDOORSでは、貸出中など、資料の現在の状態もわかるなど、とても便利な機能も備わっています。このDOORS利用講習会を両校地で行います。講習会では、基本的な操作方法から知っておくと便利な検索方法まで、実習をまじえながら係員がわかりやすく説明します。初めてDOORSを利用する方を対象にしていますが、DOORSの操作にご質問がある方もぜひ参加してください。

### 今出川図書館 入庫説明会

今出川図書館には閉架書庫があり、約40万冊の図書と7000タイトルの雑誌・新聞のバックナンバーを配架しています。閉架資料の利用にあたっては、通常はメインカウンターに請求票で申し込み、係員が出納をしますが、入庫説明会を受講して入庫証を取得すると、利用者ご自身が閉架書庫に入庫して資料の利用ができます。書庫内には、閲覧机（50席）、DOORS検索性PCや複写機を各階に設置しています。開館から閉館の1時間前まで、出納受付休止時間帯にも閉架書庫へ入庫できます（月曜日～日曜日）。

今年度の春学期は、20回の入庫説明会を行います。本学学部生・大学院生のかたならどなたでも説明会に参加できます。各回の定員は20名です。ぜひ説明会に参加してください。

## 新入学生対象・総合情報センター（図書館） 利用説明会に1390名が参加

めまぐるしく変化する時代において、有意義な学生生活を送るには、図書館をはじめとする総合情報センターの諸施設・サービスをいかにうまく利用するかにかかっているといえます。しかし、いきなり使いこなすなどなかなかできるものではありません。同志社大学では、その道案内ともいえる学部ごとの「説明会」を毎年、新入生対象に行っています。今年度はオリエンテーション期間中の4月3日・4日の両日6回にわたり開催され、合計1390名の参加がありました。

講習会は2部構成で、前半は「利用案内2002」をもとに図書館の概要・施設案内・資料の種類や相互利用サービス・効果的な利用法・利用内容について、後半では、同志社大学の資料の探し方、すなわち蔵書検索システム「DOORS」の使い方、ホームページから各種データベースにアクセスするなど学術情報検索の利用意義・方法についての説明が行われました。とくに「新聞記事検索」のデモでは探している記事の全文検索が瞬時に行われるのを見て会場のおちろちろから驚きの声があがっていました。

従来の紙媒体からCD-ROM・オンラインデータベースなどの電子媒体へと情報の形態は変化しつつあります。しかし、いくら情報が提供されていても、利用できなければまったく無意味です。近年、利用者教育の重要性が叫ばれる理由です。

例年どおり、DOORS講習会やデータベース講習会を開催しますので、まだ参加していないみなさん（学年は問いません）はぜひ参加してください。詳しい日程については、ホームページ、掲示等でお知らせします。

また、図書館の利用についてわからない点があればレファレンスカウンターに遠慮なく相談ください。



1. 鎖国時代の日本情報

1853年、開国を求めてアメリカからやってきた黒船の主、ペリー提督。その彼が、未知の国日本と交渉するにあたり、船に携えてきた2つの日本関係書物があります。それは、シーボルトの『日本』と、ケンペルの『日本誌』でした。

18～19世紀の欧米は、オランダ商館の医師として来日したこの二人のドイツ人を通して日本を知ったといっても過言ではありません。特に、厳しい鎖国政策をとる元禄時代の日本について詳細に紹介したケンペルの著作は、その後一世期半もの間、欧米人が日本について言及する際に必ず引用された比類のない書でした。

今回はこのケンペルの足跡を辿りながら、最近入手したケンペル関連資料をご紹介します。

2. ケンペルの日本への道すじ

エンゲルベルト・ケンペル（Engelbert Kaempfer 1651～1716）は、ドイツのレムゴーで牧師の次男として生まれました。17歳で生地を出て、ヨーロッパ各地で諸学を修めた後、ウプサラ大学（スウェーデン）遊学中の31歳の時、スウェーデン国王のペルシア使節団書記官に採用されたのがきっかけで、アジアにいたる長い旅に出ることになります。

1683年ストックホルムを出発し、モスクワ、ペルシアの各都市に滞在し、さらに、ジャワ、シャム王国（現タイ）を経て、1690年9月ついに日本の長崎までやってきます。

長崎にはそのまま2年1ヶ月余り滞在しますが、その間、1691、1692年のオランダ商館長の江戸参府に随行し、将軍綱吉にも謁見しています。そして、この日本滞在を長い旅の終着点として帰国し、1716年にその生涯を終えるまで、その後の人生を研究と執筆にあてました。

その彼が生前に刊行できた唯一の書物が、昨年度入手した『廻国奇観』と呼ばれるものです。

3. *Amoenitatum Exoticarum*...『廻国奇観』

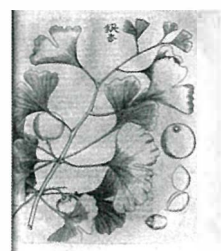


【292.209 K9204 図 貴重】

ケンペルのスウェーデンから日本に至る大旅行記をラテン語で記述したもので、1712年に出版されました。原題の意は「異邦の魅力」ですが、日本では、『廻国奇観』と呼ばれています。有名な鎖国論を始め、後述の『日本誌』の付録に再録された報告、図版も含まれています。ケンペルが序文の中で「今日の日本」の完成を告げていることから、日本に関する記述は後の出版を予定していたため一部省かれているのか、大半はペルシアに関する記述となっています。しかし、この書は『日本誌』と並んで、ヨーロッパ人の日本観の形成に大きな影響を与え、特に第5部「日本の植物」の章は、欧米人による日本の植物研究の嚆矢として必ず言及されるものとなっています。



樟

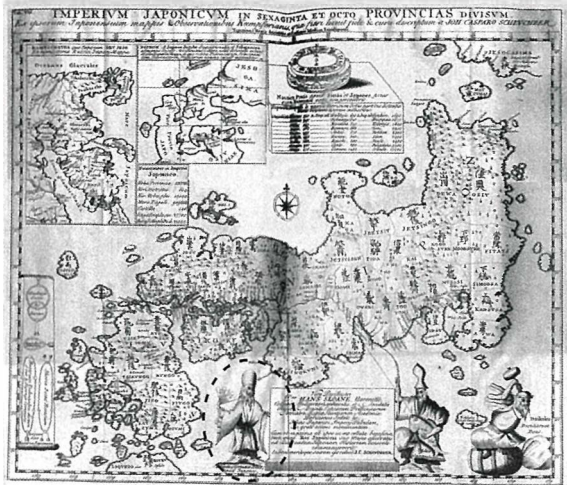


銀杏

〈ケンペルによって初めてヨーロッパに紹介された植物〉

刊行後、『廻国奇観』は同時代の日本でもよく知られるところとなり、出島の三学者としてケンペル、シーボルトと並び称されるツンベルクから若狭の蘭学者、医者である中川淳庵に贈られたことがわかっています。

#### 4. The History of Japan...『日本誌』



〈ショイヒツェル編集のケンペルの日本地図〉

ケンペルの死後、遺稿、蔵書は遺言により甥に譲られました。しかし、経済的な理由でケンペルの遺産は売られることになり、日本関係の原稿・資料類は『日本誌』の出版を条件にイギリスのハンス＝スローン卿が購入しました。ケンペルの残した『日本誌』のドイツ語の草稿は、当時スローン卿の個人文庫の管理をしていたスイス人ショイヒツェルによる校訂、英訳を経て、詳しい解説とケンペル略伝を付して1727年に出版されました。

この書は、日本に関する一般的記述の他、政治、宗教、貿易に関する詳細な記述と、二度の江戸参府日記からなる5編と、茶、製紙法、鍼、灸、電涎香、鎖国についての論文からなる付録で構成されています。イギリス国王にも献呈されたこの書は、ヨーロッパ中に大きな反響を呼び、翌年ロンドンの2つの書店からすぐ再版されます。また、英語版から、1729年には早くもフランス語版、オランダ語版が翻訳出版され、1749年にはデュ・アルデの『中国帝国誌』に含まれていたフランス語版を元にしてドイツ語版が出版されました。

この、ショイヒツェル編集の『日本誌』の他に、もう一つのケンペルの『日本誌』があります。これは、1773年ケンペルの姪の死去後発見されたドイツ

語原稿を元にしたものです。後のプロシアの外交官、歴史家としても活躍するドームによる校訂を加えて1777～1779年にかけて出版されました。

この2つの『日本誌』はどちらも元原稿が失われており確認しようがありませんが、偏見のない客観的で正確なケンペルの記述は、いずれも翻訳者、校訂者により書き換えられている部分が多いといわれています。しかし、この書は全体として今までにない正確な日本像を著しているため、ツンベルク、シーボルトはもちろんのこと、日本に来る誰もが目を通す資料として時代を超えて尊重されました。

本学では、ショイヒツェルの英語版第二版（1728）フランス語版（1732）、オランダ語版（1733）を所蔵しています。※注

#### 5. Papers of Engelbert Kaempfer...

##### 『ケンペル手稿集成』【FM290 E9112 22～31】

前述のスローン卿は大英博物館の創始者となったため、彼の手稿を含むケンペル・コレクションは現在大英博物館・大英図書館に保管されています。今までこれらの資料は現地でしか利用できなかったため、研究には大変な困難が伴いましたが、一昨年欧文手稿の部分がマイクロフィルム化されたので、この度購入の運びとなりました。そこには彼の肉筆の絵や原稿が収められており、研究執筆のなまなましい過程を垣間見ることができます。また出版された書物が後世の編集者・翻訳者らによってどのように変更が加えられたのかも見て取れます。



〈七福神に関するケンペルのノート〉

例えば右の図は、前掲の〈七福神に関するケンペルのノート〉と〈ショイヒツェル編集のケンペルの日本地図〉の一部ですが、ケンペルがスケッチした福祿寿は、『日本誌』ではその長い頭にターバンを巻き、顔立ちも西洋風になっています。ショイヒツェルは、このようにケンペルの『日本誌』原稿からだけでなく、ケンペル所蔵の資料や、スケッチを駆使して編集にあたりました。

本学では文化交流史関係資料の充実にも努めていますが、今回ご紹介したケンペルの資料は、その原資料と草稿、また翻訳書も合わせて多数所蔵する資料群を形成しています。

注：いずれも今出川図書館貴重室に所蔵しています。〔下記〕  
英語版【291.09 K8-2A】【291.09 K9211】 フランス語版【291.09 K8-2C】 オランダ語版【291.09 K9205】



これらの資料に触れて、ケンペルの類い稀な好奇心、また記録をとり後世へ伝えようとする飽くなき努力の足跡を目にするだけでも、意味あることと信じて疑いません。



## 日・EUフレンドシップウィーク at 同志社大学



5月20日(月)～25日(土)は同志社大学で日・EUフレンドシップウィークを開催します。

タイトルのとおり、日本とEU(欧州連合)の友好を目指す企画です。駐日欧州委員会代表部との共催で5月9日の「ヨーロッパデー」を中心に、全国各地でいろいろなイベントが計画されています。

同志社大学にはEU資料センターが設置されていることもあり、今回の日・EUフレンドシップウィーク参加の運びとなりました。みなさん奮ってご参加ください。なお、すべてのイベントは一般市民にも公開します(入場無料)。

### ●公開講演会「欧州統合の歩みー過去・現在・未来」

5月23日(木) 2講時 明德館21番教室  
講師に駐日欧州委員会代表部公使のナイジェル・エバンス氏をお招きして欧州統合についてのオープンレクチャーを開催します。

### ●シンポジウム メインテーマ「欧州統合の現状」

5月24日(金) 13時～17時 同志社礼拝堂

同志社大学におけるEU研究者によるシンポジウムです。さまざまな切り口で欧州統合をとらえます。

基調講演 嶋田 巧 助教授(商学部)

早川 勝 教授(法学部)

釜田 泰介 教授(法学部)

コーディネーター 鷺江 義勝 助教授(法学部)

### ●ユーロ展・EU資料展 今出川図書館 地階

5月20日(月)～25日(土) 10時～19時(25日は12時まで)  
2002年1月よりスタートしたユーロ通貨を通じてEUの経済的な側面を紹介します。通貨統合までの歴史的な歩みと現在の状況や、それぞれデザインの異なる各国のコインなど、パネルにして展示します。

ユーロ展とあわせてEU資料の展示もします。

今出川図書館1階東の「EU資料センター」では、ルクセンブルクの欧州委員会出版局から官報、月報、年報をはじめとするたくさんの出版物の送付をうけています。この中から主な資料を展示します。お気軽にお立ち寄りください。

# おしらせ

## ■ マニュアルのPDF形式による利用について

情報処理実習教室利用の手引き、ネットワーク利用の手引きに加え、今年度から各種マニュアル（電話回線からの利用、ファイル分割ソフト、ファイル圧縮・解凍ツール、ネットニュース）についてもオンラインPDF形式にて提供しています。また、情報処理実習教室、オープン利用室等に設置されているパソコンのデスクトップ画面にはPDFファイルへのショートカットアイコンを設定しています。PDFマニュアルのURLは下記のとおりです。なお、これらのURLへは情報処理実習教室やオープン利用室等からの参照のほか、自宅からのダイヤルアップ接続によりアクセスすることができます。

<情報処理実習教室利用の手引>

<http://www.doshisha.ac.jp/network/kyotebiki/index.html>

<ネットワーク利用の手引>

<http://www.doshisha.ac.jp/network/tebiki/index.html>

<電話回線からの利用、ネットニュース、  
ファイル分割ソフト、ファイル圧縮・解凍ツール>  
<http://www.doshisha.ac.jp/network/index.html>

## ■ ヘッドフォンの増設

インターネット授業、情報基礎講座等への対応のため、情報処理実習教室・演習室およびオープン利用室にヘッドフォンを増設しました。ヘッドフォンを装備している教室は次のとおりです。

<京田辺校地>

恵道館 (KD)	101～106番教室、オープン利用室
頌真館 (TS)	101・102、301・302番教室
知真館 (TC)	1号館132番教室
ラーネット 記念図書館	1階PCコーナー

<今出川校地>

寧静館 (N)	21～23番教室、地下1～3番教室、 オープン利用室
弘風館 (K)	21番教室

## ■ 情報コンセントが利用できるようになります

京田辺校地のラーネット記念図書館1階のオープンPCコーナーおよび第2読書室、今出川校地の寧静館地下3番教室の情報コンセントコーナーが利用できるよう、準備をすすめています。

これらのエリアの情報コンセントについては、接続する機器の利用者認証を行い、本学ネットワークへの接続を許可された利用者のみ電子メールやWWW閲覧などのネットワークサービスを利用できるようになります。ネットワーク機能（TCP/IPによるLAN接続）およびWWWブラウザを備えた機器であれば、特定のソフトや機器は必要ありませんので、ユーザIDとパスワードによって容易に本学ネットワークへアクセスすることが可能となります。本サービスの提供開始日は、6月上旬を予定していますが、詳細は、本学ホームページのdnews（学術情報ネットワーク速報）でお知らせします。また、接続する機器の設定などについては、ホームページ（<http://www.doshisha.ac.jp/network/index.html>）にてお知らせする予定です。なお、接続用のケーブル（ツイストペアケーブル、CAT5規格）については各自で用意してください。

## ■ 「情報基礎講座：情報倫理」受講について

2002年度に入学した学部生・3年次編入生・大学院生および2001年度の学部生の方は、「情報基礎講座：情報倫理」の認定試験において所定の成績を修めないとインターネットの閲覧、E-mail等のネットワークサービスが利用できません。上記のみなさんのうち、未だ情報倫理を受講していない方は教務課、京田辺校地教務事務室まで相談してください。

同志社大学総合情報センター報 No.23  
(2002年5月15日発行)

編集・発行 同志社大学総合情報センター  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL075-251-3960